

あさみ いせき
朝見遺跡（第5次） その4

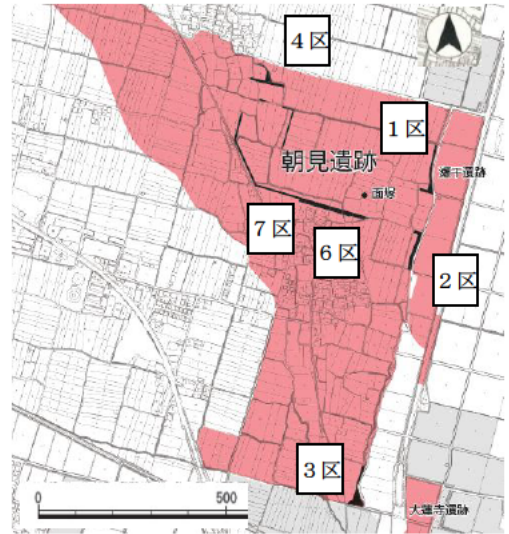
所在地：松阪市 立田町・和屋町（まつさかし たつたちょう・わやちょう）

位置情報URL：[三重県地図情報サービス](#) [朝見遺跡発掘調査現場](#)

縄文時代中期末の土器が、沖積平野の遺跡から！

現在、朝見遺跡での発掘調査は、1～4区の調査がほぼ終了し、6区・7区での作業に鋭意取り組んでいるところです。

1区は前の発掘情報で、方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）が見つかったことをお伝えしましたが、さらに下層確認を行ったところ、弥生～平安時代の遺構面の約60cmほど下で暗褐色土の堆積を確認し、そこから縄文時代中期末（今からおよそ4,500年前）の土器がまとまって出土しました。



およそ東西3m・南北10mの範囲で、小礫の集中と土器が見つかりました。



暗褐色土は、厚さが約25cmありました。



小礫や土器は、意図的に廃棄されたもののようです。



出土した縄文土器の一部です。口縁部に渦文をもつものや、矢羽状に沈線を施すものなどがあります。

朝見遺跡のように、沖積平野で縄文時代中期末の土器が出土した例は、三重県内では非常に少なく、貴重な成果です。しかし、残念ながら生活に用いた石器や、竪穴住居などの遺構は見つかっておらず、遺跡の性格は正直なところまだよくわかっていません。



6区の作業風景です。
中世の井戸が複数あります。



弥生時代終末期の方形周溝墓が2基、見つかりました。

上の写真は現在作業中の6区の様子です。6区でも1区や2区と同様、弥生～鎌倉時代の遺構面に縄文土器や石器、焼土などが数多く含まれており、下層に竪穴住居などが存在する可能性があります。

6区の調査から、朝見遺跡がどのような性格をもった縄文時代の遺跡であるかを解明する手がかりを見つきたいと思います。今後の調査にご期待ください。

<問い合わせ先> 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503
三重県埋蔵文化財センター調査研究1課
担当者：櫻井・谷口・森・嶋田
電話：0596-52-1732 FAX：0596-52-7035
E-mail：maibun@pref.mie.jp